

2020 年度新入生のみなさんへ

新入生のみなさん、神戸市外国語大学 入学 おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症への対応のため、みなさんと一堂に会しての入学式が執り行えなかったことは、たいへん残念ですが、みなさんを本学の一員としてお迎えしたことを、教職員一同、うれしく感じております。

新入生のみなさんの多くは、神戸市以外の出身かと思えます。本学の受験で初めて神戸に来られた方もおられるかもしれません。近年、多くの大学では、近隣地域出身の学生が多数を占める傾向が強くなり、学生の多様性が生み出す活力という点で問題があると指摘されています。その点、本学は、全国から学生が集まっていますので、身近なところから、自分とは違う価値観や情報をもっている人と自然に接することができます。

将来、多様性に富む世界を舞台に活躍しようと意気込んでおられるみなさんにとって、それは大切なことです。これから教室で隣に座る人が、これまで知らなかった世界に誘ってくれるかもしれませんし、生涯の友として、一緒に未知の世界に乗り出すことになるかもしれません。

しかし、ただやみくもに世界に乗り出せば良いわけではありません。ただ見るだけで、体験するだけで、世界が理解できるわけではありません。見たこと、体験したことをきちんとした「理解」にまで高めるためには、それなりの準備が必要です。それが学問です。

みなさんはすでに入学までにたくさんの知識・情報を頭の中に入れておられるでしょう。しかし、どんな知識や貴重な体験も、バラバラのままでは、その力を十分に発揮できません。まず、それぞれの知識や情報を整理することが必要です。本を本棚に並べるように、この知識はこの棚、この経験はあそこ、というふうに整理すれば、みなさんが勉強してきたこと、体験してきたことが目に見える形で分かるようになります。しかし、単に整理して並べておくだけでは、十分ではありません。それを取り出して使いこなす技も必要です。

そうした整理の本棚の役目を果たし、かつ「使いこなしの技」を伝授してくれるのが「学問」です。大学で学問を学ぶことで、これまで修得してきた事柄、これから体験する事柄に秘められている意味がはっきりと見えてくるでしょう。

目に見えないもの、一見とらえどころのないものに、形を与えたり、言葉で表現したりする、それが学問の力です。これまでもやもやしていたことがくっきりと見えてくれば、不安を感じることはありません。それらを自在に使いこなせば、新しい未知の状況に対しても対応できるようになるでしょう。そして、その先には、思いもしなかった世界が広がっています。

それは、現在のこの不幸な状況についても同じです。通常とは異なる入学をただ嘆くだけではなく、希有な経験として、そこに何かを見つけ出して欲しいと思います。

外の世界と向き合い、新しい発見をする。そしてそれを表現する。本学での学びによって、本物の知性を身につけて下さい。私たちは、それを全力でサポートしたいと思います。そして、一日も早くみなさんとお会いし、みなさんと一緒に、神戸市外大をさらに魅力ある大学にしてゆけることを願っています。

2020年5月

学長

指 昭博